



フェローシップ・ニュース NO.29号

第14回NADCP ドラッグコート専門家会議に参加して 事務局長 尾田 真言

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

発行日
2008年7月1日

全米ドラッグ・コート専門家協会のミズーリ州セントルイスで開催された第14回NADCPトレーニング・カンファレンスに、2008年5月28日（水）から31日（土）までの4日間参加してきました。今年で、6回目になります。今年3月に日本に来日して講演をしていただいたジェフリー・ロジネック判事には、初めて会うことができませんでした。予算削減のためということで、毎年15人程度このカンファレンスに参加していたマイアミ・デイド郡のチームは、今年はわずか5人だけで、ロジネック判事は今年の8月15日に退官し、後任のデボラ判事がマイアミで3人目のドラッグ・コート判事になると紹介されました。



セントルイスのアーチ

今年のテーマは、「ドラッグ・コートをさらに推進しよう：健全な家族とコミュニティの癒し」というスローガンでした。

昨年からドラッグ・コートの卒業生が自己の体験談を語るようになっていますが、今年は特に少年の体験談が取り入れられました。2日目の午前中のセッションでは、サンディエゴ郡の少年ドラッグ・コートに今参加中の少年と卒業生による、体験談があり、卒業したばかりの18才の女の子が途中で泣きながら自分の薬物使用体験を語ったり、17才の男の子が、今、第3段階にいて、あと2週間で卒業予定になっているという話をしたりしていました。

毎年、毒物学者のポール・カリー教授のセッションは人気が高く、すぐに満席になるのですが、今年は、「ドラッグ・テストの101の常識」、「薬物検査で陽性反応が出た人の1001個の信じられない言い訳」というセッションがあり、特に後者は1000人位入れるシアターで開催されました。ドラッグ・コートで薬物検査は必須のプログラムの一つですが、ドラッグ・コート判事をはじめとするスタッフたちは、常に正しい知識を求めて勉強しています。

また、今年初めて、唾液検査キットについてのセッションが開かれました。薬物検査と言えば、尿検査がスタンダードで、どこのドラッグ・コートでも尿検査をやっているのですが、唾液検査キットを製造しているVarian社のスタッフとニューヨーク州の保護観察官の2人が、唾液検査キットの方がドラッグ・コートで尿検査に比べてより簡便であるという話をしていました。

今年の特徴は、ドラッグ・コートの発展形態である、問題解決型裁判所の中の、飲酒運転裁判所に関するセッションの増大です。新しい治療方法やアルコール検査キットの使用方法についてのセッションが目立ちました。たとえば、アメリカで2006年4月にFDAに承認されたアルコール依存症の治療薬ナルトレキソン(Vivitrol)を販売しているAlkermes社が、大きなオレンジ色の布製バッグを全参加者に無償で配布したり、DWIコート（飲酒運転者のための裁判所）でこの注射薬を用いたプログラムが開始されていることについて、わが国でも有名なペギー・ホラ元判事を交えたセッションが開かれました(<http://www.vivitrol.com>)。



左がデバラ判事と右が尾田

この治療薬の特徴は、カウンセリング等のプログラムと併用することで、コントロール飲酒を可能にするというものです。Vivitrolを注射することで、飲酒に伴う至福感、高揚感が得られなくなり、気持ち良くなれないことで、アルコールを飲む理由がなくなり、飲酒量が減っていくというものだそうです。

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所(Asia-Pacific Addiction Research Institute)の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

ドラッグ・コート専門家会議に参加して…尾田真言	1 2
薬物依存症と家族の対応について(6)…町田政明	3
体験談…ブーキー 家族の回復プログラム	4 5
入寮者からのメッセージ…ティミー	6
藤岡ニュース! 会員募集中!	7
アパリからのお知らせ	8

抗酒剤（シアノマイド）が、アルコール成分を分解しないようにすることで服用中にアルコールを飲むと死ぬほど苦しむことでアルコールから遠ざけようとするのとは異なっています。

ちなみにホラ元判事は、2006年に21年の判事生活を終えましたが、現在、全米ドラッグコート研究所（NDCI）の上級裁判官研究員をしておられます。Vivitrolのセッション以外では、「すべての裁判官が精神障害について知っておくべきこと」というセッションにおいて、ドラッグ・コート参加者の中には精神疾患を重複している者が多いので、その各種対応方法を理解しておかなければならないという講義をしていました。

次回、平成21年の第15回大会は、カリフォルニア州のアナハイム、平成22年の第16回大会はボストンで開催されることになっています。次回の特徴は、プロブレム・ソルビングコート（問題解決型裁判所）のセッションのために1日開催日を延長することになったことです。



マイアミチームと夕食を囲んで



セントルイスの街並み

—アパリの司法プログラム受講者—

1、実刑判決 2、執行猶予判決 になった2つの高裁判決を紹介します！

覚せい剤事件について、これまではほとんど保釈が許可されていなかった、執行猶予中の再犯のような実刑確実事案や、第一審の実刑判決言渡後であっても保釈が許可されるケースが増えています。そうした保釈期間中に薬物依存症回復プログラムに参加したことが評価されたケースと評価されなかったケースがあります。

1、覚せい剤で執行猶予中の再犯者に対して第一審の執行猶予判決が控訴審で実刑判決になった事案

フェローシップ・ニュース第26号(平成20年1月1日号)2頁で紹介した覚せい剤0.1g所持事件に対する大阪地裁平成19年12月の執行猶予判決は、量刑不当を理由として検察官から控訴され、平成20年5月に大阪高裁において破棄自判され、懲役1年実刑(求刑懲役1年6月)という結果に終わりました。判決理由の中で裁判所は、被告人が真摯に反省して、薬物依存症回復プログラムに参加してきたこと、その他種々の情状を考慮しても、「被告人に対して再度刑の執行を猶予しなければならない特段の事情があるとまではいえず、再度刑の執行を猶予した点において軽すぎて不当」との判断がなされました。

この事案に対して、「2度目の覚せい剤所持事件において、初犯時の判決をさらに下回る判決が言い渡されることは理論的にありえない」と、指摘してくれた弁護士の先生もいらっしゃいました。現時点では、薬物依存症回復に向けた努力は、量刑上、再度の執行猶予が付くほどまでには評価されないということなのではないでしょうか。

2、覚せい剤の再犯者に対して第一審の実刑判決が破棄されて控訴審で執行猶予判決になった事案

東京高裁は平成20年6月、前刑の執行猶予期間経過後4年3か月目に言い渡された第一審の懲役1年4月実刑（求刑懲役2年）を執行猶予期間経過後4年7か月目に破棄自判して、懲役2年・執行猶予4年保護観察付にしました。判決理由の中で、第一審判決はその判決が言い渡された時点で誤りはないとしつつも、判決言い渡し後に生じた新たな情状、すなわち、第一審実刑判決後にダルクに入寮して薬物依存症回復プログラムを受けている点が評価されました。そして、執行猶予が切れてから5年あいていないので実刑事案であったが、5年あいていないから必ず実刑というのでは、被告人のように回復しようと努力している人に希望を与えることができないので、刑事政策的見地から再度の執行猶予とするとの説明がなされました。裁判官は「あなたがこの4年間に再び覚せい剤に手を出したら、執行猶予が切れて5年以上経過していない覚せい剤の再犯者には二度と執行猶予は付かなくなるだろう。だからあなた一人の問題ではなく、後に続く人たちのためにもがんばるように。」と説示されました。これは薬物再乱用防止に向けた取り組みが量刑に反映された裁判例です。

絶賛発売中！！

アパリ理事・石塚、尾田、嶋根が執筆しています。本書は、従来刑罰しかなかった薬物事犯者対策に薬物依存症治療を導入したドラッグ・コート制度を日本でも創設しようとする日本で初めての書物です。

「日本版ドラッグ・コート」
定価：2,625円（税込）
発行：日本評論社
最寄りの書店でお買い求めください！



家族のための連続講座

薬物依存症と家族の対応について(6)

「無力・共依存・イネイブリング」

カウンセラー 町田政明

家族が家族教室や本などから情報を得てもなかなか実際の行動に移すのは困難です。人は知識が入ったからといってすぐには行動できないところがあります。他人の話を実際聞くこと、自分が困っていることや失敗したことなど仲間の中で話していく中で、ゆっくりと自分の胸に落ちていき行動できるようになるのです。他人の失敗を聞くこと、自分のダメだったところを話すところからはじまります。

無力を認める

家族は今まで散々自分たちのやったことを振り返ってみてください。うまくいったことがあったでしょうか？うまくいくのではないかと思われたこともありましたか、それはほんのわずかの時間でなかったでしょうか？ ちょっと長い目で見るとほとんど家族のしてきたことはうまくいかなかったと思います。

やってきたことの検証をしたら、ほとんど効果は見られなかった事実を認めないといけません。効果のなかったことは今後も効果がないと思います。自分たちは本人を治そうといういろいろなことをしましたが、効果がなくて悪循環(メリーゴーランド)に陥っていて、むしろ本人の病気は悪くなり家族自身もひどく傷ついて、体の調子(不眠、うつ、死にたいなど)がおかしくなってきたと思います。

今までやったことが効果のないことならば、今までやったことのないことをするしかありません。すなわち今までは本人を治すことばかり考えていたと思いますが、それは効果がないので、本人を治そうとすることを止めることが必要だということです。

依存症は不思議な病気で、回りが治そうとすると治らない病気で、治すのを止めると本人が回復に向かったりするのです。逆説的な病気です。

家族は本人を治すことをできないという事実を認めないといけません。本人を治すことに無力であるということです。家族が本人を支配して治そうとする間は治りません。私たちの支配を解いて、彼を自由にする必要があります。家族自身が自分たちのパワーを手放して、同じ家族や援助者にゆだねることが大切です。

共依存(パワーを手放せない人)

病気の知識がなく本人の病気に反応して、何とかしようとして共依存に陥ってしまう人もいますが、どうしても自分のパワー(支配)を手放せない人たちがいます。もともと世話好きで他人のことが気になる人たちです。今の世知辛い世の中で自分のことしか考えない人たちと違い、温かく人間味のある人たちだといえます。

しかし、この病気に過剰に反応することで、本人の病気も良くなるどころかむしろ悪くなり、世話好きの彼女も疲れ果てて苦しくなり病気になってしまうのです。この状態を共依存といいます。

病気と分かってもなかなか手放せない人たちは、元々共依存の体質を持っています。例えば、長女に生まれたとか、母親がお世話好きとか、自分の生まれた家族が機能していない問題を持った家族に生まれたとか、共依存になるルーツを持っています。薬物依存症の人が薬物に依存しているように、このような人は人に依存しています。「人依存症」ともいえます。また、このような人たちはいつも問題を抱えているのが好きなのです。いつも人のことや悩みで一杯です。自分のことより他人のことが優先されます。薬物依存症の本人の対応を学ぶことも大切ですが、このような人は自分のルーツに遡り、自分の共依存と取り組む必要があります。

母親の息子への共依存は薬物依存症の家族によく見られます。母の共依存はかなり深い問題があります。日本の母は息子が20才や30才のいい大人になってもいつまでも自分の所有物という感覚が抜け切れません。これはもともと臍の緒で繋がってお腹を痛めて生んだという特別な関係なので仕方がないのでしょうか？ このような感覚から抜け切れないといくら勉強しても、なかなかストーンと心の中に落ちません。本人と同じで、「分かっちゃいるけど止められない」のです。

家族の体験記
好評発売中！！

ギャンブル依存症に悩む
家族の物語
～絶望から希望へ～

この本には、ギャンブル依存症で悩む8人の家族の体験が綴られています。これは真実の物語です。家族の貴重な体験を知ることができる貴重な一冊です。

定価：1,000円
発行：ホープヒル
(アパリで販売中)

**ロイ神父からのメッセージ
DVD付き書籍
販売中！**

『仲間になってくれて
ありがとう』

昨年他界したロイ神父が20年以上にわたりマック・ダルクを通して語ってくれた数々の貴重なメッセージと、彼の“仲間”からの手紙を綴った珠玉の一冊。日本における依存症リハビリ施設の歴史を知り、回復者たちの生の声を聞くことができる総頁数500ページを超える重厚な内容に加えて、ロイ神父のビデオメッセージが収録されたDVD付き。援助職の方、ご家族、当事者などさまざまな立場の方にとって必読のバイブルです。一般の書店ではご購入できません。

定価：3,500円

FAX：03-5830-1791
メール：info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

イネイブリング（支え手）を止める

今までして来た対応は、すべて病気を支えることでしかありませんでした。これからは支え手を止めることが求められます。すなわち全く今までとは違うこと、逆のことをする必要があります。本人の支配を止めて手放すのです。母親が一番苦手なことです。本人を子ども扱いしてきた今までと違い大人扱いして、本人の問題と責任を本人に返すのです。彼は自分のしたことを自分で責任取れる大人として信頼して、本人の問題を「命」さえ本人に返すのです。薬をやって死ぬ自由さえ本人に返すのです。

本人には薬を「やる自由」と「やらない自由」の両方を認められないと回復はありません。家族は厳しい愛(タフラブ)を求められますが、それを認めてはじめて回復の可能性が開けてきます。子ども扱いしないで大人として本人を扱うので、本人のしたことは全て本人に責任を取ってもらいます。それを見ている家族は今までと違い大変つらい試練だと思います。まさしく厳しい愛が要求されます。

今まで愛情と思い本人を支配してきました。愛情という名の支配です。これからは彼を自由にして、家族の手から解放放つのです。

別な言い方をすれば共依存のカプセル状態から私たちが抜け出さないとはいけません。本人は気がつきませんから、私たちがカプセルから出て自分の道を行くのです。

「僕の愛すべき母」

プーキー

こんにちは私Pookyは今回、この原稿の依頼を受け、何を書くのか迷った末にやっぱり僕は一番大切な？愛すべき母（笑）との関係を書くことなのかなあ、とか思いながら今書いてるわけなんですけど、僕自身今年6月でクリーン11年を迎えるわけなんですけど、いまだに母と一緒にいると、2時間に1回位はイラっとして（笑）そして時々口論しちゃうんですよ。でも、これでも良くなった方で、クリーンになる前は会えば必ず口論、クリーン8年目位までも1～2時間しかもたなかったかな。なんか、僕の腹の立つツボを知っているというのか（笑）とにかく、僕の怒りの地雷を踏んでいくわけなんです。それが、なぜ変わって行ったのかと言うと、もちろんNAやダルクでのプログラムなんですけど、その辺についてちょっと書きます。

僕はアディクトで薬物依存症であり、共依存症でもあるわけなんです。そして母も共依存でお互いが境界線（ヘルシーバウンダリー）を飛び越え、掻き回し合うという関係を何十年も続けてきました。たとえば、母が「ご飯を食べるか？」と聞いてくる、僕は「いらない」と答えるんだけど、ご飯を準備しているんですよ（笑）。そして、僕は「いらない」と言ったにも関わらず後で食べたくなったりして（笑）。そんなとき、なんとそこにご飯がセットされているわけなんです（笑）。これはもう、僕がご飯がいるとかいらないとか関係なくなっちゃう訳で、しかも僕の意識の中で「いらない」と答えても何とかかなんと言う考えも育ってきちゃうんですよ。（この辺ももしかして薬を使い続けていくのに何か関係があったかもしれないけど）だけど、そのうち僕も「いらない」と答えているのにご飯を用意する母に対し自分の意見が聞いてもらえない気がしたり、ウザかったりしてきて反発するんです。でも母としては、「後でおなか空いた時のために」とか「お前のことを思って」とか言ってくるわけなんですよ。こーなっちゃうともう何が良いのか悪いのか解なくなっちゃうって（笑）。

まあ、そんな感じで関係は続いてきたんだけど、僕自身の薬の底つきでNAやダルクに行くことになって自分が薬物依存症であることや共依存であることに気づき、受け入れる事が出来るようになって“これは母との関係も変えていかねば”と思い始めたわけなんです。でも母自身は特に家族教室やナラノンには通ったりしてなくて、僕の言っている事にはチンプンカンプンで理解してもらえず、僕は僕で依存症者だから良いと思ったらそれに執着して、なんとか母にわからせようと必死になってた（笑）。この頃にはもう母とは一緒に住んでいなかったんで、ご飯に関しては言われなくはなっていたけど（笑）。でも今度は僕の所に電話で度々、「お前の体が心配だ」って！なんかテレビで病気の番組とかみると不安になるみたいで（笑）。これには最初のうち、反応して言い返していたんだけどやっぱり“人を変えることは出来ない”ということから、自分が変わるしかないなあって思って対応するんだけど、やっぱり腹が立つ（笑）。これは僕と母との関係の積み重ねから来るもので反応したりするから、他の人から同じことを言われても気にならないのに、母から言われると腹が立つんですよ。だから距離を取ったりプログラムをやったりしても結構時間がかかりました。もちろん、今でも腹の立つことはあります。でも少しずつ優しく出来るようになったかな？それから、これは全く僕の問題なんですけど、母が間違っただけを言ったり、トンチンカンな事を言ってるのを聞くと、ものすごく腹が立つ時があって「なんでわかんないんだ」とか言いながら、僕の言って

る事は正論だという思いでねじ込もうとしちゃう事があったんです。あと、病院も好きでね少しでも調子悪くなると病院に行くんですよ。そして、薬で治ると思ってる。でも僕が見る限り母の具合が悪いのは精神的なものだと思うんだけど、内科の病院でなにか診断を出してもらい薬をもらってくるんだよね(笑)。そして、僕は「薬じゃ治らないんだよ」って怒る(笑)。でもね、なんでこんなに腹が立つのかよく考えてみたことがあって、そうしたらなんと、“母を人から良く見てもらいたい”という気持ちの偏った部分からくるものと、僕自身のエゴだと気づいたとき、僕自身これまで築き上げた「ありのまま生きる」ということの真逆を母に求めていたことに気づきました。怖いですよ。自分ではやられると嫌なのに、母には求める。でもね、この辺を気づいてからなんか少しずつ変わってきた気がしますね。薬に頼るのも母も歳だし、飲んで落ち着くならそれもいいかなあって。

僕がアディクトになったことに対して一時は母の事を恨むところから始まったりしたけど、“恨んでいても何も変化が起きない”ということ“回復には責任がある”ということに気づき、母との過去を棚卸しをし、それでもなかなか変えることができなくて、でも変わりたいという気持ちが少しずつだけ母との関係を治してくれたような気がします。

いまだに少しはトラブルもありますが(笑)・・・やっぱり母は愛すべき人です。

薬物依存症の問題で苦しんでいる家族の回復プログラム

アパリでは薬物依存症の問題で苦しんでいる家族や友人たち(子供、配偶者、恋人、パートナー、友人)に対し、月2回の家族教室と併用して、個別カウンセリング、Nar - Anon(ナラノン)への参加をお勧めしています。

その中でナラノンとは家族や友人たちで薬物依存症の問題で困っている方達の集まる場(セルフヘルプ・グループ)で、現在全国に約50ヶ所近くあります。アパリに相談に来られた薬物依存に問題を抱えた本人はダルクを通じNarcotics Anonymous(ナルコティクス・アノニマス)と言うセルフヘルプ・グループへ通います。そのNarcotics Anonymousの頭文字を取って、本人たちをNA(エヌ・エー)、家族や友人等をNar - Anon(ナラノン)と呼んでいます。ナラノンの主な目的は、薬物依存症の問題で苦しんでいる家族や友人等を、同じ問題を抱えた仲間とし、分かち合い、回復していくことです。ここで行われる回復のプログラムとは、ミーティングを中心とした12のステップです。この12のステップは、NAでの回復のプログラム12ステップに基づいた、ナラノンの12ステップです。このナラノンの12ステップに沿って、自分自身を新しい生き方に変えていき成長させていきます。また、12ステップのプログラム自体、基本的にはNAと同じなので、本人はNA、家族や友人等はナラノンと、プログラムを進めていくことにより、ステップを通じ、お互いが共感しあえることもあります。

ナラノンでは薬物依存症の問題で苦しんでいる家族や友人等なら誰でも参加できます。特別な入会手続や会員登録などはなく、入会金や会費もかかりません。運営にかかる費用は純粋に自分たちからの献金で賄い、自立しています。また、ミーティングでは、本名や住所、職業などを話す必要はありません。ニックネームやファーストネームで呼び合っています。また、特定の宗教団体等にも一切関わりはありません。

こうしたナラノンや家族教室に参加することにより、薬物依存症の本人との関係の中に新しい考えや、希望が持てるようになって来ます。

しかし、家族教室やナラノンだけではどうしても拭いきれない事や個人的に焦点を絞った相談事が出てくる場合もあります。その様なときには、専門家の個別カウンセリングをお勧めします。

これまで、薬物依存症の問題で苦しんでいる家族や友人たちが、新しい生き方を始め、回復して行き、有意義な人生が送れることをアパリでは心より望んでいます。

<ナラノン連絡先>

ナラノンG.S.O(ゼネラルサービスオフィス)
住所:〒171-0021東京都豊島区西池袋2-1-13 目白ハウス2E
電話/FAX:(03)5951-3571
受付時間:毎週月～金曜日 AM10:00～PM16:00(祝祭日は休み)

<アパリ家族教室>

対象:薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者
日時:第1・第3月曜日18:30～20:30 場所:アパリ・クリニック上野2階
参加費:3,000円(ご夫婦などでの参加は2名で4,000円になります)
電話:03-5830-1790 予約は不要です。

「薬物依存」 DVD販売中!

アパリが作成したDVDで本人の体験談や、近藤恒夫の話が約30分間収録されています。学校での薬物乱用防止教育、行政の職員の研修で利用されています。

1枚 3,000円

FAX:03-5830-1791
メール:info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。

アウェイクニングハウス 入寮者からのメッセージ

「薬を使っていた自分と今の自分」

ティミー

アパリ発行
「Born・Again (ボーン・アゲイン)」
体験談 販売中!

2005年5月に第2版が発売になりました。体験談が13人分収められています。アパリではこの本を拘留所や刑務所にいる人への差し入れ用として使っています。

定価：1,500円
(会員価格:1,000円)

お申込はメールかファックスで
FAX：03-5830-1791
メール：info@apari.jp
ご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

僕がブロンという咳止め薬に出会ったのは16歳の時でした。きっかけは、当時働いていた居酒屋でした。まだ若かったせいか仕事に対して自覚も無く、ただ退屈でしかない毎日でした。朝も早く夜も遅い日々が続く、工作中料理を作っている最中に立ったまま居眠りしてしまうこともしょっちゅうでした。でも僕の周りの先輩たちは一心不乱に働いていました。その姿に戸惑うばかりでしたが、その理由がすぐに分かりました。調理場で働いている人達の殆どが咳止めを飲んでいたので。その時は興味も無く気にもしなかったのですが、ある時に職場の先輩が僕のところに来て「この薬は仕事に集中できるし、眠気も取れるから試しに飲んでみなよ」と咳止めを1瓶差し出されたのですが、その言葉に引かれ断ることが出来ず一気に飲みました。市販薬だし大丈夫だろうと思っていましたが10分すると今まで感じたことが無い感覚が湧き上がってきて体が軽くなり、すごい高揚感と気持ちよさで驚きました。目つきを変えて仕事に取り組む姿を見て、嬉しそうに笑っていた先輩たちが今でも忘れられません。その日から、僕にはその薬が必要で手放せない日々が始まったのです。

その後3年ほどは仕事も順調でしたが、初めて飲んだ1本から3年後には4、5本になり錠剤にも手を出していました。一日分でそれだけ使うのでお金がなくなることが殆どで、足りない分は先輩や後輩、店長などからお金を借りその中から薬を買っていました。借りたお金なので、いずれ給料の中で返していかなければならずそうすると手持ちのお金が無くなり、薬を買うには足りなくなるので、次は親にすぐることになって遂には消費者金融にも手を出し悪循環がはじまりました。二十歳の頃には200万を超える借金がありましたが、返済するあてなど無く、ほったらかしにすることが当たり前になっていました。それでも返していかなければいけないので、自分の大切にしていたものを売るようになり、無くなると人の物にも手を出し、それを売って返済に充てたりしていました。その後しばらくはしのげたのですが、借金の事が親にばれて何に使ったのか問われましたが、薬のためとは言えずごまかし、借金を肩代わりしてもらいました。その事を反省もせず、むしろラッキーだと思っていました。借金がすべてリセットされ、また何も恐れず薬が使えると思いつつこそこそはうまく使おうと思っていました。

しかし物を盗む楽しさを知った僕は、仕事を辞めて泥棒を始めそれで得たお金で薬を使っていました。その後窃盗や万引きで逮捕され、3度目には刑務所に行くことになりました。しかしそれが薬を止めるきっかけにはなりません。社会に復帰して仕事を始めてすぐに疲れやストレスから又すぐに咳止めを飲んでいました。自分にはこれが無いと生きていけないと思いました。すぐに警察に捕まる前の自分に戻っていました。薬によって以前は集中できていた仕事も日に日に出来なくなっていき、サボることも多くなり仕事を突然辞めるようになり、苦しい日々がつづく事も多くなりました。

心療内科にも通うようになり、そこで先生にNAやダルクを紹介されましたが、薬を止めるつもりはありませんでした。無理やり親に連れて行かれましたがもちろん続きませんでした。仕事も続かず自分の部屋に引きこもったり、仕事が決まっても次の日には行かない様なことは当たり前でした。それでも万引きなどしながら薬を使い続けていました。ようやく自分にあう料理の仕事に就きましたが、右目に違和感を感じるようになり包丁で手を切るようになり、眼科に行くと右目白内障にかかっていた。手術を勧められましたが、勇気がなくてできませんでした。包丁で手を切る恐怖から仕事を辞めました。やりたくない仕事をしながら収入を得て薬を使いまた止めては盗みをし、薬を使う日々でした。何年かした後、親に勧められ目の手術をしてまた飲食店で働きますが包丁が怖くて持てず諦めてしまいました。その時から僕は仕事をしなくなり引きこもり、人のお金を当てにして薬を使いながらおかしくなっていました。それを見かねた親に入院を勧められ精神病院に入院する事になりました。その頃から僕の中にも薬を止めたい気持ちが芽生えてきました。入院中も薬の離脱や欲求に勝てず毎日病院を抜け出しては薬を使う日々でした。病院にもバレて退院させられてしまいました。家に帰っても親に叱られて殴られ、どうすることも出来ませんでした。

一晩自分なりに考えて、ダルクに行く決心をしました。そして次の日に日本ダルク アウェイクニングハウスに入寮する事になりました。自分の弱さから逃げ出したり、薬を使ってしまうのではないかと不安になることもありましたが、我慢する事を続けながら生活を送りました。

食事当番という作業を与えていただきましたが正直、自分には出来ないと言うか、やりたくありませんでした。包丁を持ったらまた手を切り迷惑を掛けると思ったからです。でも多くの仲間から手助けしてもらい、僕の出来ることから少しずつ始めていきました。少しずつ包丁を持ち練習をしながら焦らずやってきたおかげで普通に包丁を使えるようになり、恐怖感もなくなりました。ダルクに来る前の僕には諦めしかなかったんだと思いました。焦らず少しずつ始めていくことの大切さも知りました。作業を与えてくれた仲間と少しずつ焦らずやらせてくれた仲間に本当に感謝しています。薬の欲求も最初は酷かったのですが、ここでの生活を送っているうちに以前よりは無くなってきて体も楽になってきました。毎日のプログラムの中で琉球太鼓をやっています。初めは嫌々やっていましたが、仲間に教えて貰いながら覚えてくると楽しくて、以前の自分では衣装を着て人前で太鼓を持って踊ることなど考えられなかったけど、今ではそれが楽しみで頑張っています。薬を使っていない今と、苦しくて毎日死にたいと思っていたあの時と比べると今のほうが楽しいし、希望があります。可能性を広げてくれた仲間に感謝しています。

日本ダルク アウェイク
ニングハウス
地元藤岡市でフォー
ラム開催！

日時：9月14日（日）12時開
場、12時30分開演
場所：藤岡市民ホール群馬
県藤岡市藤岡1567番地4
電話：0274-22-3305
交通：八高線「群馬藤岡」
下車徒歩10分
テーマ「薬物依存症からの
回復と支援」
ゲスト：近藤恒夫、岩井喜
代仁ほか。

本人の体験談、家族の体験
談、琉球太鼓など予定して
おります。
皆さまのご参加を心よりお
持ちしております。

藤 岡 ニュース！

昨年より行ってきたさまざまな修理・点検（エレベーターの点検・屋根の防水工事等）も終わり、入寮者たちが力を合わせ施設内の改装や造園工事を行っています。

ミーティングの合間を縫って、今後も改装を続け、来年は外壁にも挑戦します！ますますキレイに生まれ変わっていくアウェイクニングハウスを見守ってください！



4階の廊下。雨漏りで天井が抜け落ちていたのですが新築のようになりました。



庭のデッキが広くなりました。奥にはじゃがいも畑がありもうすぐ収穫です。



中古の業務用冷蔵庫を買いました。



2階ミーティングルームを改装しました。

会 員 募 集 中 ！

平成20年4月より新規会員（正会員・賛助会員）を募集します。ご入会していただいた方には、会報「フェローシップ・ニュース」を毎号お届けします。また、書籍購入の割引や公開講座・フォーラム、自助グループ開催に関する情報提供等、様々な特典がございます。アパリは立ち上げて9年目に入った組織です。今後も、薬物関連問題の新たなシステムとネットワーク構築のために全力を尽くしていく所存です。アパリに関するご意見ご要望がございましたらいつでもご連絡ください。

【年会費】 正会員：12,000円 賛助会員：6,000円

【期 間】 平成20年4月1日～平成21年3月31日まで

【郵便振込】 番号：00160-7-136870 アパリ東京総本部

アウェイクニングハウスとは振込み先が異なりますのでご注意ください。



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部
〒110-0015
東京都台東区東上野6-21-8
電話：03-5830-1790
FAX：03-5830-1791
Email：info@apari.jp

アパリ藤岡研究センター
(運営：日本ダルク アウェイクニングハウス)
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313

- 【入寮条件】
1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
2、男性(年齢制限なし)
【入寮期間】
基本的に13ヶ月
【入寮費】
月額16万円(初回17万5千円、生活保護の方も可能)



ホームページもご覧ください
<http://www.apari.jp/npo/>

発行者：近藤恒夫
編集責任者：志立玲子
平成20年7月1日発行
定価 1部 100円

<アパリの司法サポート> アパリの支援

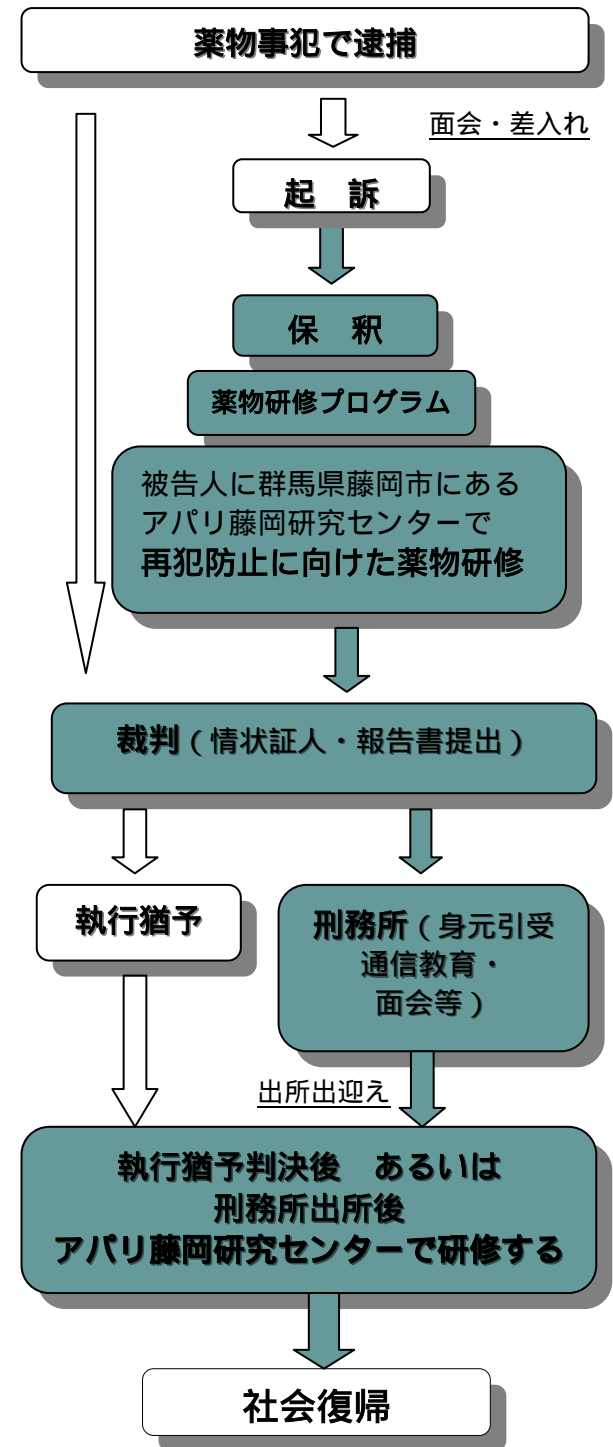
《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は**5%以下**です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用：コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です]

【お問合せは東京本部まで】



<家族教室>

「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

日時	ゲストスピーカー	テーマ
7月7日(月)	依存症本人とその妻	「家族の側から見た支援」
7月21日(祝)		「薬物をなぜ止められないか」
8月4日(月)	原田周治(日本ダルク アウェイクニングハウス・スタッフ)	「なぜ親の思いが伝わらないのか」
8月18日(月)		「回復の落とし穴」
9月1日(月)		「依存症にしない子育て」

- 【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者
【日時】第1・第3月曜日18:30~20:30【場所】アパリ・クリニック上野2階
【参加費】3,000円(ご夫婦などでの参加は2名で4,000円になります)
【内容】カウンセラーの町田がファシリテーターとなり家族との分かち合いを行います。法律問題については事務局長の尾田が担当します。【お問合せは東京本部まで】

<個別相談・カウンセリング>

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など 【料金】45分 9,000円
【場所】アパリ東京本部 【カウンセラー】町田政明[元神奈川県立せりがや病院勤務、ホープビル代表、寿アルク理事] 【予約】アパリ東京本部 03-5830-1790 【注意事項】当日のキャンセルや変更の場合は全額いただきます。遅れていらした場合は時間が短くなりますのでご了承ください。